

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105743
法人名	有限会社 媛のくに
事業所名	グループホーム 媛のくに
所在地	松山市枝松3丁目1-23
自己評価作成日	平成23年1月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>* ホームの理念に掲げているように、ご利用者の笑顔にこだわり、個々の思いに耳を傾け「こんな事したい」「こんな所に行きたい」という希望を可能な限りかなえる事が出来るよう支援しています。</p> <p>* 近隣のスーパー、食べ物屋さんなどに積極的に出掛ける事で、出来るだけ地域に溶け込めるよう、また生活の幅が広がるよう支援しています。</p> <p>* 公文学習療法を取り入れ、認知症に対して積極的にアプローチしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>普段、近所の方と顔を合わせた時には、職員の方から挨拶するよう心がけておられる。ゴミ収集日には、利用者と一緒にゴミ置き場の掃除をしたり、事業所は「まもる君の家」の登録もされている。近くの公園で行われる「夏祭り」時には、利用者も盆踊りの輪に入り、地域の方達とともに楽しまれたり、又、地域の運動会時には、利用者の席を用意くださっており、利用者は、玉入れ等の競技に参加して地域の方達と交流された。以前、利用者が一人で外を歩いていた際には、近所の方が「いつも散歩の時は、職員さんと一緒なのにおかしい」と、知らせてくださった。管理者は、散歩を通して、利用者の顔を覚えてもらっていることを感じられたようだ。事業所で行っている救命講習にご近所の方も誘い「講習を受ける機会を設けていただき良かった」と感想をいただいた。又、事業所の夏祭りには、子供会会長さんが参加を呼び掛けてくださり、親子で参加してくれる方もあった。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 媛のくに

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 浜本 小夜子 (日野 玲子)

評価完了日

平成23年1月5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との交流を図りながら、その人らしく当たり前の生活が送れるようにとの理念を掲げ、入り口に掲示し常に目にふれ、共有できるようにしている。 (外部評価) 開設時に作成した「笑顔や笑い声の絶えない居心地の良い家庭づくりをします」「地域の中でその人らしく当たり前の普通の生活が送れるようお手伝いします」という理念をもとに「利用者も職員もみんなが笑顔でいられるような支援」に向けて取り組まれている。職員の採用時には、理念について理解が得られるよう説明されている。管理者は、今年度は、ユニットごとに「力を入れたいこと等を目標に立てたい」と話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事に参加したり、事業所での夏祭りや運営推進会議に参加していただいている。また、近隣の方にお花や野菜など頂いたり日常的に交流している。 (外部評価) 普段、近所の方と顔を合わせた時には、職員の方から挨拶するよう心がけておられる。ゴミ収集日には、利用者と一緒にゴミ置き場の掃除をしたり、事業所は「まもる君の家」の登録もされている。近くの公園で行われる「夏祭り」時には、利用者も盆踊りの輪に入り、地域の方達とともに楽しまれたり、又、地域の運動会時には、利用者の席を用意して下さっており、利用者は、玉入れ等の競技に参加して地域の方達と交流された。以前、利用者が一人で外を歩いていた際には、近所の方が「いつも散歩の時は、職員さんと一緒なのにおかしい」と、知らせて下さった。管理者は、散歩を通して、利用者の顔を覚えてもらえていることを感じられたようだ。事業所で行っている救命講習にご近所の方も誘い「講習を受ける機会を設けていただき良かった」と感想をいただいた。又、事業所の夏祭りには、子供会会長さんが参加を呼び掛けて下さり、親子で参加してくれる方もあった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などに参加して頂いた際、質問を受けたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヵ月に1回開催し事業所の活動報告、ご利用者の状況を行い、参加者から意見や質問を聴きサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 一年間の会議開催日程を先に決めておられ、ご近所の方、町内会長、地区内のグループホームも参加していただき、利用者も加わって「座談会」のような雰囲気で開催されている。職員も順番で会議に参加されている。近所の方一人を会議にお誘いしたところ、その方から輪が広がり、6名の地域の方に参加していただいたこともあり、管理者は「今後の取組みにつなげていきたい」と話しておられた。管理者は、他グループホームの会議にも参加して意見交換をされている。会議時、参加者から「地区内のグループホームで何かあった時の連絡体制を整えてみてはどうか」とアドバイスをいただいた。</p>	<p>事業所では今後、会議を「参加しやすい会議」に工夫したいと考えておられた。「会議のテーマを決め案内」したり「認知症の勉強会も開催したい」と話しておられた。さらに、ご家族の参加も増やしていけるような工夫にも取り組んでいかれてほしい。いろいろな立場の方が集まり、意見交換しながら事業所のサービス向上に活かしていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いた際に、事情所の状況、取組み等を報告し意見を求めている。</p> <p>(外部評価) 成年後見制度を利用している利用者もあり、事業所でも制度について勉強して、市の担当者の方にも教えてもらいながら支援をされている。運営推進会議時には「誤嚥事故の報告が多くなっているため気をつけるように」とのアドバイスをいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ミーティング時等に身体拘束になっていないか職員間で話し合い理解している。夜間以外は、施錠しないよう徹底している。</p> <p>(外部評価) 玄関は、日勤職員が出勤時、開錠し、日勤職員の帰宅時に施錠するようになっている。利用者の中には気ままに出かけるような方もおられ、一人は職員が居間に居て、利用者の動きを把握するよう心がけておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、ミーティングなどで職員が理解を深めるよう努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、必要性がある場合は関係者と話し合い活用できるよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前には自宅を訪問したりホームを見学して頂き、起こりうるリスク、重度化や看取り、医療体制の実情などを説明し同意を得るようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には、訪問時やケアプラン変更時に意見を求めたり、常に問いかけ何でも行っていただける雰囲気作りに努めている。また、出された意見、要望はミーティング等で話し合い反映している。	
			(外部評価) 忘年会時、ご家族にも案内して、併設のダイルームで鍋を囲み交流されている。夏祭りや、忘年会等の行事の際、ご家族にも参加を呼び掛けておられる。事業所便りは、休んでおられたが、このたび再開されており、年3回発行して、ご家族に送付するようになっていた。介護計画の見直し時には、担当職員から利用者ご本人の様子を知らせ、ご意見をうかがっておられるが「お任せします」とのお返事が多いようだ。今後、事業所では「毎月ご本人の写真を載せた手紙を送付したい」と考えておられた。ご家族から「職員の顔と名前が一致しない」と意見があり、各ユニットの入り口に、職員の名前と写真を掲示して、今日勤務する職員が分かるようにされていた。	管理者は「家族同士がつながりを持って、交流する機会が必要」と考えておられ「家族の集い」に関してアンケートを取り「開催するなら時間帯はいつが良いか」「どんな形式が良いか」等をお聞きした。ご家族から事業所のサービスについて具体的な意見や感想が聞けるよう、集いのあり方等もご家族と相談しながら工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	(自己評価) 月1回のミーティングを行い、意見交換時に一人ひとりから意見、要望を聞くよう心掛けている。	
			(外部評価) 管理者は、職員からの提案やアイデアを大切にされており「明日から試してみよう」と、まずは行ってみることをすすめておられる。モップ掛けを行ってくださる利用者の足元が不安定になってきたことに職員が気付き、ご本人がモップ掛けを続けられるよう、職員は見守ることを皆で話し合い支援されている。	
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	(自己評価) 運営者も頻繁に現場に来ており、ご利用者と過ごしたり、職員にも声掛けを行い職員の業務、悩みなどを把握している。また、研修にも積極的に参加を勧めている。	
13		<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	(自己評価) 外部研修案内をファイルし、希望者は優先的にシフト表に取り入れ受講できるようにしている。また研修報告書を提出したり、ミーティング時に報告し共有している。	
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	(自己評価) 他のグループホームの運営推進会議や夏祭りに参加し交流を深めている。また、研修などに参加した際などに交流し意見交換を行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	(自己評価) 事前面談で生活状況の把握、ご本人の不安や要望を聞き取り安心して頂けるような関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の要望、不安等に耳を傾け信頼関係を築けるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談時によく話し合い、ご本人、ご家族の思い、状況等を確認する事で改善に向けた支援の提案をし必要なサービスに繋げるようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者の得意分野で力を発揮して頂き、協働しながら和やかな生活が送れるような声掛け、場面作りをしている。職員がご利用者からいたわったり、励まされたりもしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には居室にてゆっくりとご家族と過ごして頂いている。その際、日頃の様子など報告している。また、ご家族と共に外出できる機会を設けている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今までの生活の延長線上であるよう、知人友人等に電話や手紙でのつながりを継続できるよう支援している。	
			(外部評価) 誕生日の日は出来るだけ「ご本人の望みを叶える日」とされ「お墓参りに行きたい」と希望された方とご家族の墓参りに出かけたこともある。友人と文通されている利用者がおられ、ご自分で文章や宛名を書かれ、職員が投函されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士の関係を把握し心身の状況や気分、感情で日々変化する事もあるので職員は注意深く見守っている。また、食事、お茶の時間は職員も一緒に会話する時間をとご利用者同士の関係が円滑になるようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院や他施設に移られた方には面会に行ったり、ご家族にはいつでも相談に応じられる事を伝えている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で声をかけ話を聞くように努めている。意思疎通の困難なご利用者は、表情や言動などから思いをくみ取るようにしている。 (外部評価) 普段の会話の中から、職員は、利用者個々の好み等を探るようにされている。又、ご家族から聞き取ったり、その時々表情を見て意向等の把握に努めておられる。2年前から「公文学習」を導入されており、現在、1・2階ユニット各3名の利用者が実施されている。調査訪問時も、職員と一対一で計算問題を解いおられる利用者の様子が見られた。文章を読む問題もあり、その内容がきっかけになり会話が弾んだり、今まで知らなかったご本人の情報を知る機会にもなっているようだ。アセスメント様式はセンター方式を採用入れて、ホーム独自の様式を作っておられた。以前はなかった「私や家族の気持ち」「私が嬉しいと思うこと、楽しいこと」の欄を設けておられ、さらに介護計画につなげたいと考えておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から聞き取りを行いアセスメントシートに記入して頂き、生活歴等の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、ご本人の出来る力、分かる力を暮らしの中で発見し職員間で共有し支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族や本人の意見、要望を聞き職員全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の原案を担当職員が作成し、管理者・計画作成担当者との話し合い作成するようになっている。介護計画は6ヶ月毎に見直し、状態変化があれば、その都度見直しておられる。利用者個々の担当職員がモニタリングを毎月行っておられる。「毎晩、晩酌がしたい」と、希望する利用者があり、健康上毎日の飲酒は難しく、ご本人と相談して土曜日の夜を「お酒を飲む日」と計画を立て支援された。ご本人は、土曜日の夜は、居室でテレビを見ながらお酒を飲むことをとても楽しみにされているようだ。現在は、支援が生活の中で定着して来ていることもあり、計画からは外しておられた。</p>	<p>事業所では、今後もさらに「ご本人の望みを叶えるようなプラン」をすすめていきたいと考えておられる。事業所の理念にも沿って利用者個々が「その人らしく当たり前の普通の生活」を送ることを支援する計画の作成に努力され、個々の「当たり前のふつうの暮らし」を支援していかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ご利用者の行動、様子、言葉など記入し職員間で情報の共有をし、ケアの実践に繋げている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご利用者の求めるニーズに対応し、その都度職員間で話し合いを行い柔軟な支援サービスに取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に地域の方に参加していただく事で、地域の行事や情報を得る事ができ参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時、本人、家族と相談し、かかりつけ医を決めている。週1回、提携病院の医師の往診と看護師長の訪問にて健康管理、異常の早期発見に努めている。	
			(外部評価) 水曜日は医師の往診、金曜日は看護師訪問の日となっており、又、24時間、いつでも直接医師に電話して指示をもらえる体制となっている。入居時にかかりつけ医の希望をお聞きして、現在は利用者全員、協力医が主治医となっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 提携病院の看護師に定期的に訪問して頂き健康管理、医療面での相談、助言などの対応を行っている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、本人の情報を医療機関に提供し職員が見舞い、回復状況などを速く知り、速やかな退院支援に結びつけている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご本人、ご家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えることが出来るよう話し合いを行っている。	
			(外部評価) 入居時、ご家族に看取り支援の希望についてお聞きしているが「その時になってみないとわからない」と言われるご家族が多いようだ。状態変化時等、その都度ご家族や医師と相談しながら、これからのことを決めるようにされている。又、看取りについての勉強をされたり、職員の連絡体制を整える等された。看取り支援時には、ご家族が泊まれるように居室に畳を用意されたり、最期の時には、ご本人がお好きだったCDを流す等、利用者やご家族の気持ちにも添いながら支援された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	年2回消防署員指導で応急手当、蘇生術の訓練を実施しすべての職員が対応できるようにしている。
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	年2回利用者と共に火災避難訓練を行い、避難経路の確認、消火器の使用方法の訓練を近隣の方にも参加していただき実施している。
			(外部評価)	近所の方にも参加していただき、避難訓練を実施された。近所の方には、非常ベルが聞こえたら事業所に連絡をしていただけるようお願いしていたが、連絡が遅く、ホーム内ではベルの音が大きく聞こえるが、近所には聞こえないことが分かったようだ。参加者からは「外に出て大声で叫ぶしかない」等、アドバイスをいただいた。夜間想定避難訓練時には、2階ユニットの利用者は非常階段から、1階ユニットの利用者は玄関から避難して、実際に時間を計ってみられた。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	馴れ合いの中でご利用者の尊厳を無視した対応になっている時が見受けられるため、職員同士で注意し合ったり、話し合いを行っている。
			(外部評価)	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	日常生活の中で、一人ひとりの力に合わせて、ご利用者自身が思いや希望を決定できるような声掛けを行っている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けているが、入浴等、希望に添えていない事もある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服は基本的にご本人に決めて頂いており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。また、日頃からおしゃれやお化粧を楽しんでいただける様支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者と一緒に買い物に行ったり、調理、盛り付け片付けなども共に行っている。同じテーブルで職員とご利用者が食事する事で楽しい雰囲気作りにも気を配っている。	
			(外部評価) お茶碗は、それぞれに大きさに違いがあり、体重や健康状態等、利用者個々の状態に応じて主食量を調整されている。肉や魚等バランスを考えながら、その日食事作りを担当する職員がメニューを決めておられ、買い物に利用者と一緒に決めて決めたり、冷蔵庫にある食材を出して利用者で「何が出来るか」相談しながら決めることもある。土曜日の昼食は「食べたい物が食べられる日」に決め、利用者は順番にリクエストして献立に反映されている。食事作りがお好きな利用者が多く「盛り付け係り」「お茶入れ係り」「食器洗いのすぎ係り」等、当番を決めているユニットもある。手でお皿を持ち上げて食べる方の食器は軽めのものにして、テーブルに置いて食べる方の食器は重ためのものにして、ご自分の力で食べることを支援されている。食事量が少なくなったような方には、小ぶりのお椀にして、残さず食べられるようにされていた。食べたいものをお聞きする時には「肉がいい？魚がいい？」等、ご本人が答えやすいような聞き方に努め、反映されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の水分量、食事量を記録し把握を行っている。ご本人の摂取量、好き嫌い、嚥下、咀嚼の状態など考慮し支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の声掛けによる口腔ケア、1/週の義歯消毒を行っている。定期的に歯科に通院しデンタルクリーニングを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握し食事の前後等の時間誘導でトイレでの排泄に取り組んでいる。	
			(外部評価) 「トイレに座った方が、腹圧がかかり排便もしやすくなる」こともあり、日中はトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援されている。調査訪問時、今までご自分でトイレに行かれていた方が腰痛のため歩行が難しく、痛みが強いのでおむつを使用していたが、おむつには排便がし辛く、ご本人の痛みの様子を見ながらトイレにお連れして支援されていた。トイレに座った際に背中が痛くないようにクッションを置いたり、足元に掛けるタオルも準備されていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝食時、ヨーグルト、フルーツを必ず取り入れたり、食物繊維も多い食材を積極的に取り入れるようにしている。身体を動かす事の大切さを意識し、散歩の声掛け、廊下歩行の声掛けを行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご利用者のその日の希望、入りたい順番など確認して入って頂いている。また、入浴剤などで季節を楽しんで頂けるように支援している。	
			(外部評価) 1階ユニットは、機械浴と一般の浴槽、2階は一般の浴室が設置されている。夏場は、入浴の希望を聞くと皆が「入りたい」と希望され、全員が入浴する日もあったようだ。入浴がお好きでない方も、時間を置いて声掛けしたり、職員が入れ替わって声かけする等して、週2回は入浴できるように支援されている。ご本人の好みのシャンプーを使用している方や入浴剤を選んで入れる方もいる。職員は、利用者の背中を流す等、スキンシップやおしゃべりも大切にされている。管理者は「1階の機械浴の雰囲気工夫したい」と話しておられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせて居室やフロアで個別に休息を取って頂いている。また、安眠の為、足浴し気持ちよく眠って頂けるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管しいつでも確認できるようにしている。 処方の変更があった場合は、日誌、連絡ノートに記載し職員全員が把握できるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の出来る事、好きな事、やりたい事を把握し活躍できる場面作りを行っている。 また、外出や行事参加などで気分転換を図っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の体調に合わせ、近所の散歩、買い物、外食など支援している。 また、ご本人の希望に添ってコンサート、美術館などにも出掛けている。	
			(外部評価) 近くの公園に散歩に出かけたり、その際、近くのスーパーに立ち寄り、それぞれがお好きなパン等を買って、公園で食べて帰るようなこともある。誕生日には、ご本人の希望に沿って、職員とデパートに出かけた方もいる。又、毎月、職員が順番で外出先を決めておられ、もうすぐイチゴ狩りに出かける予定があり、利用者は楽しみにされていた。コンサートや演奏会、演劇を観に行かれることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の財布はホームで管理している。 今後、外出、買い物時などご自分で財布から支払って頂けるような働き掛けを積極的に行っていききたい。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたいという希望があればいつでもかけられるように対応している。 また、ご友人と手紙のやり取りをされている方もいて、今後も継続できるよう支援していききたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 窓から外の景色が良く見え、田植え、稲刈りなどを見る事で季節感を味わえる事ができる。 湿度を保つ為に炭を置いたり洗面台に水を張ったりして、居心地よく過ごせるように支援している。	
			(外部評価) 玄関にはベンチが置かれあり、利用者の手押し車もあった。視力が弱い利用者が、手すりを探す場面を見た職員は、廊下やトイレの手すりにカラーテープを巻き、目に付きやすいよう工夫をされていた。居間には、本棚が設置されており、昼食後、読書をされている利用者の姿が見られた。ご近所の方がお花を持って来てくださり、お花が好きな利用者と一緒に生け方を相談しながら、花瓶等に飾ってくださることもある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファで気の合った方同士でおしゃべりをしたりテレビを観たりオセロ、パズルなどをして過ごされている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には使い慣れた寝具・タンス・椅子などを持ち込み本人が居心地よく過ごして頂けるようお願いしている。また、手作りのカレンダーや、家族の写真を飾ったりして居心地よく過ごせるようにしている。	
			(外部評価) ご家族と一緒に撮った写真や、ご主人の写真を飾っておられる居室が見られた。シクラメンの花を飾っておられたり、ソファを置いている方もあった。以前は畳み部屋で布団を敷いて寝ておられた方が、膝の痛みや立ち上がり時に姿勢が不安定になることもあって、ベッドに変更されていた。今までベッドを使用したことのなかった利用者でもあって、変更の際にはまずは簡易ベッドで試してみて、ご本人と話し合いベッドを使用することに決めたようだ。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下で車椅子が離合出来る幅の確保や廊下、浴室、トイレの手すりの設置により安全に自立した生活が送れるように配慮している。	